「この人 04」

田代青波 61歳 兵庫県

- 八 木 句画書・・・の田代青山夫人、おしどり俳人ですが青山さんは俳句のライバル？なんですか
- 田 代 十五年ほど前に私に俳句のてほどきをしてくれた俳句の先輩です。身内は手厳しく本当のことを言ってくれるからいいですよ。
- 八 木 なるほど・・・夫婦で切磋琢磨。俳壇の微苦笑俳壇にも競って投句して下さいましたね。
- 田 代 その甲斐あって「口づけを迫る唇豆の花」で年間賞もいただきました。
- 八 木 第一句集も読ませていただきましたが「股つかみパッチの乾き確かむる」迫力のある可笑しさでしたね。
- 田 代 あの句は結社の上品な女性にはインパクトがありすぎて不評を買いました。叩かれましたよ。
- 八 木 なかなか、青波さんのような句を作れませんからね自然を書き写すだけの句をつくる方が多いですから
- 田 代 そうですね。もっと身近なところに生き生きした句材があるのと思いますよ。
- 八 木 滑稽句の発想の原点はどこいらにあるのですか
- 田 代 私は体力がないので元気な人を揶揄することで元気になれる・・・たとえば「極月の元気なだけの議員来る」などという句がそうです。それから「露の世の猫も杓子も俳人で」などという句もあります
- 八 木 いいなあ・・・したり顔の俳人が嫌いなんですね。青波さんの「笑いの原点」には生来の気質も関係しているんじゃないですか

田 代   それはありますね。生まれは島根ですが、近畿圏に住んで大阪人の「お笑い好き」が血肉になっているんです。姉がお笑い好きだったということも今の私の滑稽句づくりに影響しています

八 木   青山さんは書家ですが奥様は？

足 立   私も書をやっています。基本的には主婦でして普通の句をつくっていると半分ぐらいは可笑しい句が出来てしまうんです

八 木   凄いですねえ。やっぱり天才なんですねえ
ありがとうございました。